

# 地域観光の振興に向けた飯能の森林文化と北欧文化との融合

平井純子

## I. はじめに

2005（平成 17）年に施行された地域再生法（平成十七年法律第二十四号）は、「急速な少子高齢化の進展，産業構造の変化等の社会経済情勢の変化に対応して，地方公共団体が行う自主的かつ自立的な取組による地域経済の活性化，地域における雇用機会の創出その他の地域の活力の再生を総合的かつ効果的に推進するため，（中略）個性豊かで活力に満ちた地域社会を実現し，国民経済の健全な発展及び国民生活の向上に寄与すること」を目的とする。この法に基づく地方再生制度には，内閣府，国土交通省や農林水産省をはじめ，各省庁が関連し，国をあげた施策として地域を盛り上げるためのバックアップを行っている。また，人口減少や東京圏への人口集中を食い止め，地方活性化するための基本理念を定めた 2014（平成 26）年施行の「まち・ひと・しごと創生法」では，住みよい街づくり，結婚や出産，育児に希望が持てるような社会づくり，魅力ある就業の機会の創出，といった理念を具現化するため，地方自治体に「地方版総合戦略」をつくるよう求めている。

2014（平成 26）年の日本創成会議による報告書において，少子化や人口流出に歯止めがかからず存続ができなくなる自治体＝「消滅可能性都市」のひとつとして名をあげられた埼玉県飯能市では，消滅可能性都市「指名」前から地域再生制度を活用した事業<sup>1</sup>に取り組んできた。例えば，2007（平成 19）年は「豊かな自然と地域の魅力が奏でるまちはんのう再生計画」とし，林業不振に伴う山の荒廃，林業の衰退に対し，山の管理や林道，市道の整備を中心とした 5 か年計画の事業を，2012（平成 24）年には埼玉県とともに「豊かな自然と安心安全があるまちはんのう地域再生計画」を策定し，引き続き，山の

管理や林道，市道の整備を 5 か年計画の事業として行っている。これらの計画の中には地域資源を活用した魅力的な地域づくりを実現するため，「森の番人」事業，山間地域振興支援事業などとともに，エコツーリズム推進事業が位置付けられていたが，かつての主要産業であった林業や山間地域へのテコ入れが主たる事業内容となっていた。林業の再興と衰退し続ける山間地域振興を主としていた飯能市の地域再生方針の転機は，2015 年 6 月に発表された Metsä（メツァ）の飯能市での事業展開にあった。ムーミンのテーマパーク<sup>2</sup>が飯能市に立地することになったためだ。これに伴い，2016（平成 28）年からの 10 か年計画である第 5 次飯能市総合振興計画（以下，総振という）では，「北欧の雰囲気とムーミンの世界を体験できる施設 Metsä（メツァ）」と強く連携する旨を随所に盛り込んでおり，飯能市が「北欧」「ムーミンの世界」といったイメージを観光のキーワードとして盛り込む意向が反映されている。地域再生制度を活用した計画としては，2016（平成 28）年，「森林文化都市はんのう 魅力ある都市回廊空間づくりのためのブラッシュアップ プロジェクト～飯能河原<sup>3</sup>周辺環境整備事業～」とし，飯能河原周辺の環境整備を進める観光業の振興を計画の中心においている。しかしながら，森林文化都市を謳っているものの，その位置づけがあいまいであり，2004 年から飯能市が継続的に取り組んでいるエコツーリズムについては，この計画には盛り込まれていない。

飯能市が傾倒する「北欧」について，みてみよう。近年の「北欧」ブームのきっかけは，2006 年 3 月に公開された映画「かもめ食堂」が挙げられる（小林，2019）。群ようこ原作，小林聡美，片桐はいり，もたいまさこが主演の映画で，フィンランド・ヘルシンキで撮影が行われた。プロダクト・プレイスメン

ト<sup>4</sup>としてフィンランド企業の商品が登場したため、Marimekko<sup>5</sup>(マリメッコ)や iittala<sup>6</sup>(イッタラ)等に注目が集まった。撮影地は現在、日本人が訪れる観光地のひとつとなっている。また、同年4月、千葉県船橋市にスウェーデン発祥の家具量販店 IKEA(イケア)がオープン<sup>7</sup>、その後全国に店舗を広げている。「かもめ食堂」と IKEA の展開がおしゃれな北欧のイメージを醸成し、ブームのきっかけとなり、フィンランド政府観光局による積極的な発信もあいまって、現在に至っている。さらに飯能市にはメッツアビレッジやムーミンバレーパークがオープンしており、これに連動したイベントや催しが続いている。今後しばらくは「北欧」ブームが続くであろうと思われる。

しかしながら、現在の飯能市で北欧を意識したモノ、コトを探してみると、西武鉄道による北欧をイメージした駅舎への改修、トーベ・ヤンソンあけぼの子どもの森公園周辺部の施設設置などいくつかはみられるが、未だ多くはない。総振の中で強い連携を強調しているが、北欧の雰囲気や付加するという点では、後手に回っているといわざるを得ない状況である。

そこで、2018年より地域創生研究センターの資金を活用し、飯能市が推進するエコツーリズムを念頭に、飯能市の「森林文化」<sup>8</sup>を有効活用するために、飯能市にとって欠かすことのできない「北欧」のエッセンスを融合させた新しい価値を創造するプロジェクトを開始した。

## Ⅱ. 地域観光の振興に向けた飯能の森林文化と北欧文化との融合プロジェクトについて

2018年より2か年計画のプロジェクトである「地域観光の振興に向けた飯能の森林文化と北欧文化との融合プロジェクト」は、筆者がプロジェクトリーダーとなり、駿河台大学現代文化学部の小林将輝准教授、小林奈穂美准教授の3名で行った。飯能市で2018年11月9日のオープンしたメッツアビレッジ、2019年3月16日にオープンしたムーミンバレーパークを見据え、2017年8～9月にかけて、フィンランドでの現地調査を行い、ムーミンをモ

チーフとしたテーマパークの現状とその特徴、魅せ方、体験メニュー、文化、みやげ物などを調査した。調査内容の詳細については、小林(2018)を参照されたい。フィンランド現地調査を踏まえ、そして、飯能市の自然環境や地域資源に鑑み、木工ワークショップでの「森林文化」と「北欧文化」の融合が有効であるとし、プロジェクトを進めていくこととした。

## Ⅲ. フィンランドの木工作品

フィンランドの国土面積は、日本よりやや小さい33.8万平方キロメートル、その1/4が北極圏である。国土の70%を森林が占めており、スウェーデンに次ぐEU有数の林業国となっている<sup>9</sup>。また、林産物の輸出先国の第2位は日本(2014年)であり、関わりは深い。

ヘルシンキなど主要な観光地で、観光客向けに販売されるみやげ物は、ムーミングッズやマリメッコ社製品、イッタラ社製品等とともに、木工作品が多くみられる。木工作品の多くは、シラカバ<sup>10</sup>を使用したもので、食器や文房具、アクセサリ、キーホルダーや置物など、多様であった。中でも人気の高いものは Kuksa(ククサ)(図1)だ。シラカバのコブを利用して作成されるカップで、フィンランド北部ラップランド地方で作成されている伝統工芸品である。様々な形状やサイズがあり、トナカイの角などが装飾される場合がある。数は多くなかったものの、日本の曲げ物と類似したバターケース(図2)が見られた。接続部にツルを用いている点、重なり部分がありきれいな楕円形にはなっていない点で、曲げ物とは相違がみられた。また、ムーミンやフィンランドで見られる動物たちをモチーフとした工作キット(図3)がみられた。郵送も可能で、手軽なおみやげ物として人気があるとのことだった<sup>11</sup>。

本プロジェクトでは、ククサ、曲げ物、木工キットの3点を参考に、飯能市内の事業所と連携した、新たな商品開発での価値創造を試みた。



図 1：ククサ



図 2：バターケース



図 3：工作キット

#### Ⅳ. 飯能市の森林文化と北欧文化を融合させた取組

##### 1. 飯能ククサ

##### 1) 名栗カヌー工房との協働

ククサを地元の西川材で作成したいと考え、飯能市名栗地区にある NPO 法人名栗カヌー工房に相談した。代表の山田直行氏は、ククサの形状を確認した上で、難しいと思うが作ってみる、と言ってくださった。1 週間ほどして工房を訪ねると、地元のスギやヒノキ、サクラなどの素材を使ったククサが出来上がっていた。偶然、カヌー工房に取材に来ていた飯能市の職員がこれを気に入り、数週間後には飯能市のふるさと納税の返礼品となっていた。カヌー工房と相談し、「飯能ククサ」(図 4)と命名した。今後、飯能市のブランドとなるよう、地元材を使った飯能ククサ作成してくれる事業所を増やしていくこととした。なお、カヌー工房は 2018 年 11 月にオープンしたメッツアビレッジ内の店舗ソグベルクでも、飯能ククサを販売している。



図 4 飯能ククサ

## 2) モニターツアーを兼ねたエコツアーの実施

飯能市エコツーリズム推進協議会の事務局を担う飯能市観光・エコツーリズム推進課、エコツアー実施団体の一つである一般社団法人里山こらぼとNPO 法人カヌー工房の協力を得て、2018年2月4日にエコツアー「西川材 de テーブルウェア vol.1

飯能ククサをつくる！」を実施した。エコツアーの内容は事前協議に諮り、飯能市のエコツアーと実施するに適した内容とした<sup>12)</sup>。広報手段としては、飯能市エコツーリズム推進協議会が発行しているチラシ(15000部)、飯能市のホームページ、里山こらぼのホームページに掲載した(図5)。

2月4日(日) 10:15~15:00  
雨天中止(前日判断)

---

クササ(KUSASA)とは、北欧フィンランドのラップランド地方に伝わる手作りマダカップのことを指します。フィンランドと触れ合う中で森への思いを表現し、キツナーは「西川材deテーブルウェア」を作るシリーズの第一弾として、自分だけの西川材を使ったクササを作ります。

集合場所	きねらびの湯バス停 【「飯能駅」又は「東飯能駅」より 国営自然バス「乱歩行」約40分 「きねらびの湯」バス停下車徒歩5分 (飯能駅北口徒歩2分、東飯能駅西口徒歩2分)]
費用	～A5,000円(ガイド、昼食、材料費、保険)
ガイド	認定NPO法人里山こらぼ工房
定員	10名
持ち物	飲み物、タオルなど
服装	汚れてもよい服装



図5 飯能市エコツーリズム HP より

実施の3週間前には予約がいっぱいとなり、10名定員を12名まで拡大した<sup>13)</sup>。当日は、ククサを形作る作業を2時間ほど行った後、フィンランド風にココマッカラ(あぶりソーセージ)のホットドッ

クと飯能産のジャガイモスープを食した。

飯能市観光・エコツーリズム推進課職員が作成したツアーレポートは図6の通りである。

## 西川材deテーブルウェアVol.1 ククサを作る！

2/4(日)

【主催・ガイド】里山こらぼ

西川材でテーブルウェアを作るエコツアーの第1弾。

「クササ」とは、フィンランドの伝統工芸品で、愛する方に贈ると幸せになれるという言い伝えがあります。フィンランドでは「白樺」が材料ですが、飯能では名産・西川材の「ヒノキ」を使用。荒削りのフォルムから、ヤスリで削って磨いていきます。ひたすら削くと、表面が滑らかになり、口当たりも良い感じになります。作業後は、フィンランドならではの食事「ココ・マッカラ」、焚き火でソーセージをあぶります。あぶったソーセージは、地元のパン屋で仕入れたコッペパンにはさんでいただきます。また、地元産のじゃがいもたっぷりのスープで温まりました。

飯能でフィンランドを想う。時間を過ごすことができました。

◀ 当日の様子 ▶



参加者の声（アンケートより）

・ほかほかごはん。美味しかったです。自分で焼いたりするというので楽しさ倍増でした。  
今まで女性限定ツアーしか参加し  
たことがなかったのですが、いろ  
んな方がいて新鮮でした。

・カヌー工房の皆さんやスタッフ  
の皆さんがとても親切で、楽しい  
時間を過ごせました。ご飯がすご  
く美味しかったです!!

図6 飯能市のホームページに掲載されたツアーレポート

ホームページに掲載されたツアーレポートを見た埼玉県のDMO組織から委託を受けている雑誌社のスタッフが、ククサづくりに関心を示し、2018年3月4日（日）にミニクサ<sup>14</sup>をつくるエコツアー（図

7）を開催した。また、3月6日（火）にはあきる野市ジオパーク推進協議会がの依頼でミニクサづくりのエコツアーを体験していただいた。本企画の関心の高さが伺われる。



図7 ミニクサをつくるエコツアー

### 3) 飯能ククサのエコツアーのアンケート結果

2月4日実施の飯能ククサのエコツアーのアンケート結果は、図8となった。

図8によると、当初は女性が大半を占めると想定していたが、11名中6名が男性となり、ククサづくりには男性への訴求力があることが分かった。ま



図8 アンケート結果

た、飯能市エコツアー参加者の居住地としては、市内市外の割合は3：7だが、今回は半数ほどが在住者であった。年齢層としては、50～60代が多かったが、2組が夫婦参加だった。一方で20代、30代のひとり参加の方がいるところを見ると、広報次第では若い層にもニーズがあると考えられる。

今回のエコツアーの参加費は5,000円としており、飯能市のエコツアーの中では高めの設定であったが、参加費について「高い」といった方はいなかった。ククサの価値を理解している方が参加していたと思われる。今回のエコツアーでは、西川材の活用だけでなく、北欧風のランチ体験をしていただくことで、地産地消も盛り込め、飯能市およびフィンランドの文化についても関心を持ってもらうことができた。

## 2. 曲げ物

### 1) 株式会社サカモトとの協働

飯能市山手町にある1966年創業の株式会社サカモトは、木製の建具や家具、キッチンなどを手掛けている。サカモトが手掛けるひとつはキャビンシ

リーズは、クールジャパンアワード2017やウッドデザイン賞2018を受賞するなど、西川材の活用を全面に出しつつ、機能性と洗練されたデザインが評価されている。日本各地には曲げ物の産地が点在するが、西川材の曲げ物は見られないため、作成依頼をしたところ、快諾していただき、西川材の曲げ物の取り組みが始まった。サカモトの職人と相談しつつ、試作(図9)を繰り返した。



図9 西川材の曲げ物(試作品)

## 2) エコツアー「西川材で曲げわっぱ作り―木とまちの暮らしを紡ぐぶらり旅―」

フィンランドでも作成されていた曲げ物を西川材で作るエコツアーをサカモト、飯能市観光・エコリズム推進課、一般社団法人里山こらぼと協働で企画、実施することとなった。曲げ物は知名度の高い「曲げわっぱ」と呼ぶこととした。誘い文は、「西川材は飯能の産業として、また暮らしの一部として、大切に育てられ、利用されてきました。このツアーでは、飯能にちりばめられた、木と生活が紡いできた歴史を垣間見ながら歩き、今静かなブームとなっている曲げわっぱを西川材で作成します。使い方はいろいろ。自分だけの曲げわっぱをつくる飯能ぶらり旅をしませんか？」とした。

2018年9月30日、10月23日の2回、定員10名で募集を始めたところ、多数の問い合わせがあり、数日で定員いっぱいとなり、ニーズの高さが伺われた。しかしながら、曲げ物の作成を担っていたサカモトを職人が急病で退職することになってしまい、ツアーはやむなく中止となった。2019年夏の開催に向けて、また、西川材の曲げ物のブランド化に向けて、現在準備中である。



図 10 KIYATA ホームページより

## 3. 木工キット

### 1) arts & crafts KIYATA との協働

飯能市下名栗に製作場を構える arts & crafts KIYATA (図 10) は、2008 年に現代美術アーティストとして活動していた若野忍氏、おもてなし上手として活動していた若野由佳氏の夫婦 2 人がそれぞ

れの視点から生活にちょっとしたファンタジーを与えるインテリアを考え始めたのが始まりという。「KIYATA 国」に住む動物たち、という独自の世界観を持ちながら、北欧風の雰囲気をもつ作品は非常に人気が高い。インターネットで買えないものがあったてもよいのでは、と展示会等での受注受付販売のみを行っている。今回、飯能市に住む野生動物をモチーフにした木工キットの作成を依頼したところ、地域の環境教育、環境理解が進むなら、と快諾していただいた。KIYATA では、通常、西川材は使用していない、とのことだったが、今回は西川材のヒノキを使用してもらうこととした。フィンランドで販売されていた木工キットを参考にしつつ、飯能らしい作品を、と試行錯誤をした結果、地元でもよく目にする、日本固有種で特別天然記念物に指定されているニホンカモシカ (図 11) のデザインとなった。



図 11 カモシカ・モビール

### 2) 西川材の木工キット「飯能在住 秘境名栗のカモシカ・モビール」

この木工キットのネーミングを「飯能在住 秘境名栗のカモシカ・モビール」とした。飯能市は都心から近いが、豊かな自然が残ることを分かりやすく表現したものだが、インパクトがあるよう、また楽しみの要素も入れ込んだネーミングとした。飯能市の木材である西川材を意識してもらえるよう、フィンランドで販売されていた形状を参考に、一枚の板からパーツを取り出して使うようにした。小学生が 1 時間ほどで完成できる難易度を想定しているが、今後、数回のモニターワークショップを経たのち、

2019 年夏休み前を目指しワークショップの開催を実施する予定である。

## V. 飯能市の森林文化 × 北欧で新たな価値の創造

本研究では飯能市が推進するエコツーリズムの考え方を念頭に、飯能市の「森林文化」を活かしつつ、「北欧」のエッセンスを融合させた、当該地域の財産となり得る新たな価値創造を目的とした。価値は個々の主観に委ねられるもので、千差万別である。創造とは新しいものをつくり出すことである。飯能市の「森林文化」は一部では価値あるものだと認識されているが、知らない人には理解されない。「北欧」好きの人は、そのデザイン性や洗練されたセンス、スタイルを好む。本研究では、森林文化と北欧という二つの既存概念から、新たな価値の創造を試みた。そして、ククサ、曲げ物、木工キットの3つの木工品について、飯能の事業者と連携し、飯能ならではの新たな商品ができる目処が立った。

IVで示した3つの事例で共通していえるのは、飯能市の事業者はチャレンジする意欲が高く、今後の広がりが期待できるということだ。今回の提案をビジネスチャンスにとらえ、新たな価値の創造を担っていくという気概が伺えた。これは、メツアへの期待の大きさと西川材への期待も影響していよう。

飯能市ではエコツーリズムを推進しているが、エコツーリズムの考え方に基づいたエコツアーの一つとしていくことで、地域ブランド化することができるとともに、単なる商品としてだけでなく、商品の裏にあるストーリーも付加価値として添えることができる。たとえば、ククサのエコツアーでは、ククサを作りつつも、飯能市の西川材から日本の林業の現状やスギやヒノキの特性を学び、「飯能ククサ」誕生秘話を聞くことができると同時に、北欧風の昼食を摂ることで北欧の食文化を考えつつ、地元野菜を知ることでもできる。何よりククサを手作りすることで愛着がわく。このような交流が飯能市へのファンとなり、さらなる交流となり、ひいては定住者となっていくきっかけをつくるのだ。しかしながら、現在、飯能市が推進するエコツーリズムは経済効果を上げる域には達していない(平井 2018)。ビジ

ネスを意識したエコツーリズムの推進に期待したい。

新しい価値の創造に際し、わかりやすいイメージの醸成が求められるが、飯能市の森林文化と北欧文化との融合は両者の親和性が高いため、負荷なく進めることができた。飯能市の自然環境、森林文化、西川材といった素材と北欧のエッセンスを融合させることは、意外と容易で、楽しいこと、ワクワクする作業である。地域活性化に向けて、ビジネスを意識しつつ、経済効果を上げながら、森林文化都市としての認知度向上を進めていけるような取り組みを継続していくことが重要である。しかし、そこにはコーディネーターが必要となる。本研究では筆者がそれを担ったが、地域に散在している情報を集約し、潜在する力を最大限に引き出ししていくコーディネーターの育成が、現在の飯能市には必要であり急務なのである。

## VI. おわりに

本稿では、地域観光の振興のため、飯能市の森林文化と北欧文化を融合させ、新たな価値を創造する試みを行った。本格的な展開はこれからになるが、木工品に関しては、両者の融合は非常に親和性が高く、わかりやすいイメージを付加することができた。しかしながら、「北欧」を取り入れる切り口は木工品だけでなく、生活スタイルやデザインなど、多様で幅が広い。別の角度からの融合についても研究を進め、飯能市に到来したチャンスを生かすべく、また持続可能な地域社会の実現に向けて尽力していきたいと思う。

## 付記

本研究は、平成 29 ～ 30 年度駿河台大学地域創生センタープロジェクト「地域観光の振興に向けた飯能の森林文化と北欧文化との融合プロジェクト」(平井純子, 小林将輝, 小林奈穂美) の研究成果の一部をまとめたものである。

## 文献

小林将輝(2019)「国交樹立期における日本のフィ



ンランド理解と表象について」駿河台大学論叢, 57号, 23-38頁

小林奈穂美(2018)「地域活性化に資する人材育成モデルの研究 - フィンランド視察を手掛かりにして -」駿河台大学論叢, 56号, 133-144頁

平井純子(2018)「里地里山型エコツーリズムの行方ー飯能市を事例にー」駿河台大学論叢, 56号, 83-94頁

## 註

<sup>1</sup> 内閣府地方創生推進事務局, 認定された地方再生計画についてによる。

[https://www.kantei.go.jp/jp/singi/tiiki/tiikisaisei/nintei\\_list.html](https://www.kantei.go.jp/jp/singi/tiiki/tiikisaisei/nintei_list.html) (2019年3月5日閲覧)

<sup>2</sup> 2019年3月16日開園のムーミンバレーパークのこと。当初はムーミンのテーマパークという呼び方をしていた。

<sup>3</sup> 飯能駅より徒歩15分ほどにある河原。埼玉県が整備したウッドデッキがある。夏はバーベキュー客でにぎわう。

<sup>4</sup> プロダクト・プレイスメント(product placement)とは, 商品, 企業名, 商業施設, ホテル, 観光地などをテレビ番組や映画, 漫画, ゲームソフト中にさりげなく登場させる間接広告手法。企業がテレビ番組や映画などの制作者に広告費を払い, 作品中に露出させることで, 不特定多数の消費者に自然なかたちでPRする。英語の頭文字をとってPP, PPMとよばれることもある(『日本大百科全書』1984~1994刊: 全26巻)。

<sup>5</sup> Marimekkoは1951年創業のフィンランドのアパレル企業。大胆なデザインとカラフルな色合いが特徴。

<sup>6</sup> iittalaは1881年創業のフィンランドのデザイン企業。

<sup>7</sup> IKEAは1970年代に2度日本に進出したが, 撤退している。

<sup>8</sup> 平成17年4月1日, 飯能市は, 森林と人とのより豊かな関係を築きつつ, 自然と都市機能とが調和するまちの創造をめざし, 「森林文化都市」を宣言した。

<sup>9</sup> 農林水産省ホームページ フィンランドの農林水産業現況による(2019年3月5日閲覧)

[http://www.maff.go.jp/j/kokusai/kokusei/kaigai\\_nogyo/k\\_gaikyo/fin.html](http://www.maff.go.jp/j/kokusai/kokusei/kaigai_nogyo/k_gaikyo/fin.html)

<sup>10</sup> 学名は *Betula platyphylla* Sukaczew。フィンランドの主要な樹木の一つ。

<sup>11</sup> このキットを作成している lovi 社では, 木材を使用する立場として, 気候変動を防ぐために自然に還元する活動をしており, 商品を購入することで, 発展途上国の植栽キャンペーンに参加することが出来る。環境保全活動に力を入れる企業である。

<sup>12</sup> 飯能市のエコツアーとして相応しい企画か, タイトルの付け方や地元への貢献など, 18項目のチェックリストにパスしたものが実施に漕ぎつける仕組みとなっている。

<sup>13</sup> ツアー当日は1名がインフルエンザのため欠席となった。

<sup>14</sup> 時間の関係で小さめのものをつくることとなった。